扶助者聖母の祝日　九日間の徳の花（７日目）

今日の徳の花は「信じたい」。

聖書の中でイエス様とマリア様が一緒に登場する場面はそう多くありません。数少ないその中に「カナの婚礼」の箇所があります。親戚の結婚式に呼ばれたイエス様とマリア様。祝いの席で楽しんでいる途中、マリア様はブドウ酒が無くなっていることに気がつきます。そのことをイエス様に伝え、どうにかしてほしいと頼みます。そして、マリア様はイエス様が何も言わないうちに、心配している世話役たちに、イエス様の言うとおりにするように伝えます。マリア様はイエス様ならこの危機をどうにか助けてくれるだろうと心から信じていたのです。そして、そのマリア様の心に動かされ、イエス様はただの水をブドウ酒に変えるという奇跡を行ったのです。

ところで、「信じる」とはどういう事なのでしょうか。私たちは普段、本当だと思う時、正しいとして疑わない、間違いないと確信する時に「信じる」という言葉をよく用います。しかしこの「信じる」という言葉の裏には、物事がはっきりせず確実な根拠がないとき、目に見えないときなど、どこか曖昧な要素が含まれているのです。もしはっきりと目に見え、手で触れることができるなら、それはむしろ「信じる」のではなく、事実そのものとして存在していることになります。

実際の生活をよく振り返ってみると、意外に目に見えないことや曖昧なことが多いように思います。例えば、宗教の時によく耳にする、神さまやイエス様やマリア様。本当にいるのかしら？と疑いたくなりますよね。その他にも人の心や自分の心、また、将来のこと。そしていま生きている意味など。

世界的に有名な絵本「星の王子様」の中に次のような言葉があります。「大切なことはね、目に見えないんだよ…。心でみなくっちゃ、ものごとは見えないってことさ。肝心なことは目に見えないんだよ。」私はこの言葉を高校生の時に知りました。友だちの事が理解できず、また自分のことが理解できずどう生きればいいか悩んでいたとき、ちょうどこの言葉に出会いました。大切なことほど目には見えない。つまり、人や自分の心や思いは目で見えないからこそ、大切なものなのだと…。そして、大切なものだからこそ少しずつ少しずつ見えてくるようになるのだ、と強く感じるようになりました。そしてこの時期、もう一つの言葉に出会いました。それは、「神さまはひとり一人をよい方へよい方へ導いてくれている。すべてはその人の善のために神さまが与えている恵みです。」という言葉です。この言葉は今でも私にとって生きるうえでの土台、支えとなっています。

私たちの生活は目に見えないものがたくさんあります。目に見えないがために不安になったり、悲しくなったり、焦ったり、絶望したりします。また、どうしてと嘆きたくなるような事や生きている意味が分からなくなることもたくさんあります。しかし、そのようなときにこそ、神さまが私たちを成長させるために導いてくれているのだと思います。そう信じるとき、それらは勇気、希望、喜びに変わり、また立ち上がって前進していくことができるエネルギーになるのではないでしょうか？

今日の徳の花「信じたい。カナの婚礼の時のあなたのように、マリア様、私はイエスを信じたい。きっと助けてくださると信じたいのです。一緒にイエスを呼んでください。」

マリア様のように信じる心を持つことで、私たちの人生の中の「水」が「ブドウ酒」に変えられ、喜びをもって生きていくことができるのでしょう！